海外派遣留学プログラム月間報告書
(報告期間:2019/08/16-2019/08/31)

8月16日にフィンランド・ユヴァスキュラに到着し、いよいよ留学生活が始まりました。ユヴァスキュラは、首都ヘルシンキから270kmほど北上したところにある、湖や森に囲まれた自然豊かな場所です。私の通うUniveristy of Jyväskyläでは、Faculty of Humanities and Social Sciences, Department of Language and Communication に所属し、Intercultural communication について学びます。8月後半の2週間は、大学が開講しているIntensive Summer Course in Academic English(19日-30日)という英語の夏期講習を受けます。まだ正規の授業が始まっていないので、今回は、留学準備にも触れて書いていこうと思います。

▽留学準備について

準備の中で1番大変だったのが在留許可でした。フィンランドの在留許可は、オンライン申請、大使館に出頭し生体認証、それから在留カードが郵送されてくるという流れになっています。私はオンライン申請の書類準備を後回しにしてしまって、あやうく渡航前に在留カードが無い状態になってしまうところでした。前もって早め早めに行動していれば、と後悔しました。

私の場合、5月には大学から入学許可証が届いており申請ができる状況だったのですが、結局申請フォームを完成させたのが7月頭でした。そこから大使館訪問の予約の連絡をすると、1番早くて7月31日になってしまいました。大使館訪問から在留カードが届くまで2, 3週間と聞いていたのでギリギリ間に合わないかもしれない、と思い、大使館の発行予定日を検索できるProcessing Time Checkerで調べると、なんと発行が8月31日から10月31日の間、となっていました。その時は、フィンランドで観光ビザから留学生ビザに切り替えができるのか、そもそも入国できるのか、英語のコースを諦めて航空券を取り直すべきなのか、かなり不安でした。留学直前に大きな問題にぶつかってしまい、支援課、学務、留学先に迷惑をかけてしまいました。しかし、奇跡的に1週間でビザが郵送されてきたため、予定通り渡航することができました。

今後フィンランドに留学する人には、
①オンライン申請をなるべく早く済ませること(渡航の2カ月前には必ず終わらせるべき！)入学許可証が届いたらできるだけ早めに申請フォームを完成させること
②大使館の予約は、オンライン申請が終わってなくてもできるということ(在留許可申請の流れについて書かれたブログなどがかなり多くありますが、サイトによって書かれていることが違うので、大使館の情報を基に進めた方がいいです)　とりあえず予約を先に済ませて、大使館訪問までにオンライン申請フォームを完成させるようにした方がいいと思いました。
③夏は大使館の予約が取りづらいこと(留学始まりのため繁忙期)
を、私からの反省点として活かしてもらえたら幸いです。

さらに、私は渡航前日に39度越えの熱を出してしまいました。フライトが夜22時だったため、出発当日に朝イチで病院に行き、留学する旨を伝え、処方箋と旅行用のお薬セットをもらいました。荷物の整理やアパートの掃除、買い物などまだまだやることがあったのにも関わらず、熱で動けず、留学経験者の友人に手伝ってもらったり、お見舞いに来てもらったり、渡航直前までバタバタ。留学直前の体調不良は、フライトの間体力が持つか、海外の病院にかかることになったらどうしよう、とか、不安要素がかなり多くなります。留学直前期の体調管理の大切さ、当たり前のことですが再確認しました。周りの友人には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

▽渡航後

ここユヴァスキュラまでは、ヘルシンキヴァンター空港から、バスやVRと呼ばれる電車で移動できます。私は、千葉大学の留学生でフィンランド語を教えてもらっていた友人がたまたま同じ日にフライトで、車での送迎を提案してくれました。空港に、友人とそのお姉さんが迎えに来てくれ、タンペレでの休憩まで2時間、タンペレからユヴァスキュラまでの2時間、合わせて5時間近くかけて送迎してくれました。そこでとても嬉しい経験をしました。

まず、友人に留学先で再会できたという安心感がありましたが、はじめのうちは、彼女とお姉さんがとても仲良しで、フィンランド語でずっと話していたのでなかなか会話に入ることができず、話しかけてもとても端的でなかなか会話が弾まなかったうえ、私も疲れていたのでタンペレまではあまり話さずにいました。しかし、タンペレで夕飯を食べながら会話をしていくと、フィンランドのことだけではなく、だんだん家族の話や昔こんなことがあったことなどもたくさん教えてくれるようになりました。話していくうちに心の距離が近づいていくのを感じました。しかも、「フィンランドで初めての食事だからわたしが払ったよ！」と言って、お姉さんがごちそうしてくれました。その後ユヴァスキュラまでは、オチ付きのめちゃくちゃ面白い話を2時間みっちりしながらのドライブになりました。フィンランド人は心を開いてくれるまで少し時間がかかるけれど、仲良くなれば芸人並みの面白さがあること、家族のように接してくれること。以前から聞いていたのですが、この2つを実感しました。10月には、彼女の家族がサマーコテージでlate mid-summer partyをするそうで、お誘いをいただいたのでぜひ行ってみようと思います。私は半年の滞在で、mid-summerのお祝いができずに終わってしまうと思っていたので、本当に嬉しかったし、なにより友人姉妹がとてもあたたかい人で、とても恵まれた留学初日でした。たくさんの人のあたたかいサポートあって、留学先に無事到着することができました。

1. 勉学の状況

英語のコースは、平日10時15分に始まり45分間の昼休みをはさみ、14時に終わります。参加者は全員で21人、韓国人と日本人が合わせて半数を占め、その他イタリアやスペイン、チェコ、フランスからが2人ずつくらいいました。ほぼ全員が自分の大学であまり英語を使っておらず、9月からの授業の対策として参加している人が多いようです。主に、3,4人のグループに分かれてディスカッションをして、その後クラス全体で共有するという形式が多く、全員に話す機会があるのと、文法などをあまり気にせずとにかく話してみようという雰囲気だったので、ストレスなく受けられました。

内容についてです。前半の1週間は、与えられたテーマに関するディスカッション、後半は最終エッセイのための準備として、形式や参考文献の書き方、1stdraftを読み合い意見を言い合うことといった、アカデミックライティングについての授業でした。主な課題は、自分の英語力についてのエッセイ、Peer-led　presentation(2人組になって専門分野を組み合わせたプレゼンをするもの)で、その他はあまり課題はでなかったので、放課後は自由に過ごすことができました。週末には、クラスで、サウナのある湖に行って、フィンランド式サウナを体験したり、バーベキューをして過ごしました。

←湖で見た夕焼け

フィンランド式サウナ→

2. 生活の状況

・寮について

ユヴァスキュラ大学の留学生は、KOASかKortepohjaという寮を選ぶことができます。私は、KOASのMyllyjärviというアパートに住んでいます。個室には家具がすでに用意されており、3人でキッチンとトイレが共有で、ルームメイトは、韓国人とスペイン人です。生活用品ですが、サバイバルキット(枕、ベッドカバー、皿3種、シルバー、コップ2種、片手鍋など)が用意されていますが、電子レンジやその他のものを揃えるのにSecondHandのFacebookやお店で調達している学生がほとんどです。KOASを選択すると、KOASが管轄する3つのアパートにランダムに振り分けられます。そのうちの1つのMyllyjärviは、大学まで歩いて40分、1番近いスーパーまで20分程度かかるので、自転車が必須です。今は天気も良いので自転車が使えますが、寒くなってきたらバスを使って行動するしかありません。Kortepohjaの近くには、コンビニもあり、スーパーまでもすぐなので、移動面に関してはKortepohjaを選んだ方が良かったかなと思います。ただ、移動中は景色を楽しめるし、近くにある湖がとても綺麗なので、今のところは満足しています。

また、チューターが入寮のお手伝いをしてくれるので、分からないことや不安なことがあれば日本にいるうちから連絡を取ることができます。5,6人の留学生に対し、チューターが1人つくようなかたちのようで、留学生は同じ専門の学生なので、授業内容の相談もでき、とても助かります。

← 通学路

寮の近くにある湖。ほぼ毎日通ってます→

・街の様子

前に述べたように、ユヴァスキュラは湖と森に囲まれていて、大きな街ではありません。大学の近くには、City Centerという、飲食店やバー、ショッピングセンターが集まった場所がありますが、大きなモールなどはありません。スーパーマーケットにもアジア料理は少なく、1番近いアジアンマーケットAsian Foodにも、自転車で30分かかるうえ、値段もかなり高いです(カレーが6.5€)。ユヴァスキュラには、Linkkiというバスが通っており、アプリで時刻表などを検索できたり、バスカードを作ることができます。友人は1ヶ月乗り放題(40€くらい)のカードを持っていますが、私は10€分だけチャージしておいて、なるべくバスを使わず自転車で移動しています。基本は3€で統一されていますが、カードを使うと少し安くなるそうなので、カードを持っておくと良いと思います。移動面に関しては、どうしても不自由を感じてしまいます。

しかし、街の雰囲気がとても気に入っていて、不思議と異国にいる感じがなく、落ち着いた気分になります。特に晴れた日は、湖に反射する光や、風に吹かれる木の葉が色を変えて揺れているのがとても綺麗で、外に出るのがとても楽しいし、疲れたときにベンチに座って湖を眺めるのも良い気分

転換になります。スーパーマーケットやカフェでは、英語の表記が全くないところがあり、初めて買い物をしたときはスマホ片手にGoogle翻訳で訳しながら選んだりしていました。店員さんは流暢に英語が話せるので特に問題はありませんが、せっかくなのでフィンランド語でもやりとりできるように勉強したいです。

また、フィンランドは物価が高いというイメージがありましたが、Second Hand Shopが多く、そのコミュニティもあるので、安く生活用品や服を揃えることができています。例えば、電子レンジが5€だったり、Tシャツが3€で売っている店があります。野菜や果物なども日本に比べるとかなり安いので、必ずしもすべての値段が高いわけではなく、場所を選べば効率よく買い物ができると思います。

・タンペレお出かけ

31日、夏の最後の日に、ルームメイトとタンペレという街にお出かけしました。Onnibusという格安のバスが通っていて、片道2時間、20€で日帰り散策してきました。タンペレはユヴァスキュラよりとても大きな街で、ムーミンミュージアムもあります。自然豊かなのは変わりませんが、建物の色合いや町並みが全く違うので、とても面白かったです。

私は、6月にここユヴァスキュラ大学のサマーコースに参加しており、数名知り合いがいました。友人と再会できることの安心感はとても大きかったです。日本にいるうちに、フィンランド出身の人と交流する機会があれば、ぜひ参加することをおすすめします。9月から始まる授業は、もっと大変なものになるとは思いますが、少しずつ慣れて行ければ良いと思います。準備に関わってくれた、支援課のみなさん、先生、学務、友人、先輩に感謝します。

海外派遣留学プログラム月間報告書
(報告期間:2019/09/01-2019/11/05)

1. 勉学の状況
わたしの所属しているDepartment of Intercultural communicationでは、千葉大学と同じようなターム性で、前期がさらに前半後半に分かれています。今回は、前半のPeriod 1の授業について触れます。

・授業
Communicationの授業だからか、ディスカッションやグループワークが多く、テストではなくグループプレゼンテーションやエッセイが最終課題になります。今年度から、履修や授業のシステムが一新されたのに合わせて、Communicationの授業の内容やレベルも大きく変わったそうです。留学生に開講されている授業は、Advanced levelで、正規の院生が対象の授業に留学生が混じるかたちになっています。わたしにとっては、レベルがとても高く、課題自体の量は多くないけれどかなり難しくて時間がかかります。前半は以下の3つの授業を履修していました。

①Fundamentals in Intercultural and Multilingual Communication
週2(90分+3時間半)で、90分の授業は講義形式で、3時間半の授業ではゲームやアクティビティを通して、文化、アイデンティティ、(移民の)同化、多言語主義、異文化能力(intercultural competence)などのトピックを学びます。12,13人の少人数クラスで、毎回のリーディングについてのディスカッションはもちろん、その場で出された質問をクラスメートと話し合って発表することが多いです。この授業では、6月のサマースクールに参加していたご縁もあり、ワークショップをさせて頂きました。1時間半でしかも英語で何かを発表することは初めてで心配でしたが、先生の手助けもあり、無事終えることができました。最終課題は、グループプレゼンテーションと、授業で扱ったトピックについて自分の経験を絡めながら考えをまとめる10ページ前後のエッセイです。

②Approaches to Intercultural competence and Instruction
2時間半の授業で、異文化能力(intercultural competence)について、どのように学びどのように教育できるのか、ということをテーマに学びます。こちらも15人くらいの少人数クラスで、前半3回は講義+ディスカッションで、後半はシミュレーションゲームを行いました。毎回授業後にLearning dialyという1-2ページのエッセイが課されます。実際にゲームを通して経験したときにどのようなことを考えたのかという分析がLearning dialyで求められるようです。講義では、先生の話すスピードがかなり速く、ノートも取れず、という状況だったので、先生に許可を頂き録音させてもらい、クラスメートにノートを毎週見せてもらっていました。最終課題のグループプレゼンテーションでは、4人グループになり、火星人になたつもりで人間がどのように生活しているのかという、The Martian Anthologyという方法でフィールドワークを行い、プレゼンテーションにまとめるというものでした。わたしのグループは、駅に行き、人間がどのように経済活動をしているのか、ということがテーマでした。

③Organizational Communication
90分の講義形式で、1番苦戦した授業でした。組織、特に企業での様々なコミュニケーションの在り方、起こりうる問題など、組織コミュニケーションの理論を学ぶ授業でした。少しビジネスに近い印象を受けて、かなり複雑でした。最終プレゼンテーションは、6,7人グループで、1つの組織(企業)を選び、ケーススタディとして分析しまとめるものでした。そして、最終エッセイはコミュニケーションに関する1つのジャーナルを選び、8つの論文を比較して、その関連性と要約をするものです。他の授業とのバランスが取れなかったのと、今までジャーナルを探したり、論文を比較して読むことがなかったので想像以上に時間も労力もかかり、先生に相談したところ、1週間締め切りを延ばしてもらえることに

なりました。先生方も、英語でエッセイを書いたり、論文を探したり読むことに慣れていない人はいつでも相談して欲しい、ということや、締め切りがストレスにならないようにしたい、といつも言ってくださいます。先生との距離が近く感じられて、親身になってサポートしてくれる人がとても多いと思います。左の写真は、この授業の教室です。机がなく教室感がないですが、その分少しリラックスして授業に臨めます。

ロシアから正規学生として院に来ている友達に、初めてコミュニケーションを勉強していることや、マスターの授業に入って本当に大丈夫なのかということを相談したことがありました。コミュニケーションの分野はBachelorとMasterで学ぶことがとても横断的だからそれほど心配する必要はないよ、と言ってくれましたが、留学で専門を変えて初めて勉強し始めたことに関しては驚いていました。留学に来たからこそ新たに学べることと、留学先で授業を理解していくための予備知識の釣り合いがきちんと取れているのか少し不安です。

2. 生活の状況

10月には雪が降り、11月になってからは最高気温が0度を下回るようになりました。日照時間が短くなっているのも感じます。10月頭からは、ビタミンDとカルシウムのタブレットを飲んでいます。曇りの日は、9-10時にならないと窓から明かりが入ってこないときもあり、登校するときまだ外が暗いこともしばしばです。授業もあと、1ヶ月ほどで終わってしまうと思うと、あっという間に感じます、残りの時間もフィンランドを満喫していきたいです。

・寮について

9月に入り、やっとフラットメイトが全員そろいました。韓国人とスペイン人との3人用フラットです。ここまで2カ月間過ごしてきて、本当にフラットメイトに恵まれたと思います。ターム末忙しくなっていますが、韓国料理やスペイン料理を作ってくれて、3人でご飯を食べたり、一緒にパーティーに行ったり、もちろん風邪を引いたり、授業や困ったことがあったら、助け合うことができる仲です。掃除や買い出しは気づいた人がやるようになっていますが、3人ともバランス良く配分できていると思います。最近、思ったことはきちんと話そう、となりました。あくまでフラットはコモンルームではなく、3人の共有スペースであること、誰かを家に呼ぶときは必ずフラットメイトに確認することなどを話し合いました。我慢せず思ったことを言えて、きちんと話をできるフラットメイトに囲まれて本当に嬉しいです。

・オーケストラクラブ

フィンランド人の友達を作りたいと思ったのと、趣味の音楽をフィンランドでも続けられたらと思い、オーケストラクラブに入りました。フィンランドは大学がサークルや部活動を管轄しているわけではなく、学生が主体でこのような団体を作って活動しているそうです。私は、ユヴァスキュラ大学のフィンランド人学生に紹介してもらい、Sinfisという学生オーケストラに入り、月曜日の17-20時に練習しています。留学生はわたしとチェコ人だけのようです。指揮者はいつもフィンランド語で指示を出すので、ほとんど何が起こっているのか分かりませんが、隣の席の人が通訳してくれたり、フィンランド語の数字を覚える練習になるときもあるので、気分転換に参加しています。今月11月に2回演奏会があり、チャールズチャップリンの映画音楽「サーカス」を練習しています。あまりイベントもなく、週に1回集まって練習するだけ、というかんじなのでなかなか人の輪を広げるのは難しい、という印象です。

・Friendship Family Program
フィンランド人の家族と交流することができる、ホストファミリーのようなプログラムです。わたしは、ドイツ人の院生と、素敵なフィンランドのご家庭にお邪魔しています。この前は、おうちに伺って夜ご飯をごちそうになりました。

・ドイツへの旅行
9月20日から23日にドイツの、ライプツィヒ、ミュンヘン、ベルリンに旅行に行きました。昔からの夢だったバッハの墓を訪れたり、歴史ある街を見てまわれたこともとても楽しかったですが、なによりも、千葉大に来ていた留学生、いま留学している千葉大生、ドイツに来ている留学生、いろんな人と再会したり知り合えたことがなによりも嬉しかったです。

← 10月中旬、Hurska(フィンランド語で紅葉)

フィンランド人の友達と、フィンランドの伝統的なパンKorvapuusti(シナモンロール)とキャロットケーキを作りました！寮にはオーブンが必ずついています。→わたしのフィンランド人の友達はみんな、お菓子作りや音楽、編み物が大好きで、素敵だなと思います